平成27(2015)年「正覚寺報」3月号

◆ご　案　内

①お聴聞の会（ご法話会）　3月1日(日)20時～

お聴聞こそは、浄土真宗のお同行の活動の中でも最も基本的で大切な営みであります。まだご縁を戴いていないお方も是非お運び戴き、ご一緒に如来様のお慈悲をお聞かせ戴き、お育てに与って参りましょう。

③仏教婦人会例会　3月16日(月)19時半～

同じく、仏婦会員の皆様に如来様のお慈悲に遇いお育てに与って戴く場であります。

④彼岸会　3月20日(金)14時～、19時半～

18日(水)種徳寺、19日(木)法泉寺、
21日（土）徳勝寺、22日(日)徳善寺
皆様お誘い合せてお参り下さい。

◆お念仏の中で遇わせて戴くこと

2月は、お浄土への道行きが確かなものとなるご縁の月でした。5日(木)、林照寺の前住が還浄されました。12日(木)、長年ご法のご指導に与った瓜生津隆眞先生が還浄されました。お通夜には初めてお訪ねした日に立ち返り、駅から2キロの道行きを辿らせて戴きました。

昨年の梯和上、信楽先生の還浄に引き続いてのできごとであり、今生でご指導に与る機会が閉ざされたことは寂しいことであります。

けれども、如来様のお慈悲をお訊ねしようと思えば、今やお念仏と共にいつでもお遇いできるのです。

先生は、「道は、行き交う人があってこそ道となるのだ」という大道の意義をお教え戴きました。大道とは、お浄土に続く白道であります。

されば、如来様から賜るお念仏を称えるとき、念仏者の足下には直ちにお浄土に続く白道が繋って下さるのであり、聞こえて下さるお名号の中に、先生方は、還相の菩薩様方となって共に居て下さるのであります。

それゆゑにか、かつては、暫く時日を要したおみのりの課題解決は、このところ悩ましさが和らぐようになりましました。りびんぐらいぶずを推敲するとき、先生方がお浄土から直接ご指導下さっているからに他ありません。

◆永代経のご縁

お客僧様に出講のお声を掛けさせて戴いたのは、昨年の秋の日のできごとでありました。当院永代経は、当院の演奏ご法話のご縁としても初めてならば、布教使様のお祝いにもなる記念すべきご法座となったのです。

年末、**「ふとあおぎみるおすがたは」**が国際センターの翻訳を伴って姿を現した翌日の朝、私は、作曲者としてお客僧を思い起しておりました。ふしぎなことにまもなく、お客僧からお電話が入ったのです。

「大津まで来ておりますが、今から寄せて戴いてよろしいでしょうか。」

私は、驚きました。びっくりしました。

これまで、大きく三回のお客僧とのやりとりのいずれもが如来様のお慈悲の現れかと思わせるものがあったからです。

まもなくおいで戴いたお客僧は、**「ふとあおぎみるおすがたは」**をご覧になりつつ、「お正月に作曲したい」と仰せ下さり「楽しなってきたなあ」とのお言葉を残してお帰りになりました。

今月初めにお客僧から届いた手書きの楽譜に**「田淵幸三作曲」**と書き込ませて戴いたものが唯今お手許にお配りした楽譜であります。

りびんぐらいぶず断章2月号の**「ふとあおぎみるおすがたは」**は、お名号をお聞かせ下さってお救い下さる如来様のお慈悲（浄土真宗のみ教え）をご案内したものであります。合掌。